

三菱ダクト用換気扇

用途	ミニキッチン・給湯室用
形名	VD-18ZY13

〈50Hz地区専用〉
※60Hz地区では使用できません。

用途	台所・居間・事務所・店舗用
形名	VD-18Z13 VD-18ZP13 VD-20Z13 VD-20ZH13 VD-20ZP13 VD-23Z13 VD-23ZP13 VD-23ZPH13

用途	台所・居間・事務所・店舗用
形名	VD-20ZPP13-T VD-20ZPPH13-T

取扱説明書・据付説明書

お客様用／販売店・工事店様用

この製品の運転にはコントロールスイッチが必要です。コントロールスイッチの位置を確認してください。

お客様自身では据付けしないでください。
(安全や機能の確保ができません)

- この製品は日本国内用です。日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.
- 正しく安全にお使いいただくためにこの説明書をよくお読みください。なお、ご使用前に「1.安全のために必ず守ること」を確認して、正しく安全にお使いください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

お客様

本冊子は据付け後、必ずお客様へお渡しください。

- 据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・工事店様が実施してください。
- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- この製品は、居間・事務所・店舗・台所（ミニキッチン）の天井に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。故障の原因となります。
- 形名によって据付方法が異なりますので、据付け前に形名をご確認ください。形名表示位置は「2.各部のなまえ」を参照してください。
- この製品には市販の埋込スイッチ、またはシステム部材のコントロールスイッチが必要です。その他屋外フードなどは三菱換気送風機総合カタログをご確認の上、別途ご用意ください。
- 電子式スイッチ（半導体制御による速調・温度・湿度・タイマースイッチなど）やホタルスイッチをご使用の場合は組合せ上、不具合の発生するおそれがありますので、ご使用の際はあらかじめご確認ください。
- 接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径の塩化ビニル管・アルミフレキシブルダクト・鋼板管のいずれかをご用意ください。

据付説明書は裏面をご覧ください

取扱説明書

1.安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

	警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの		注意	誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
--	-----------	-----------------------------------	--	-----------	---------------------------------------

本文中や本体に使われている図記号の意味は次のとおりです。

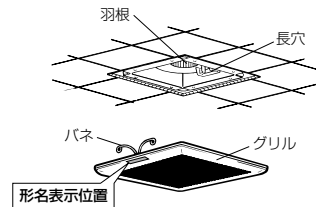
	禁止		水ぬれ禁止		分解禁止		浴室での使用禁止		接触禁止		感電注意		指示に従う
--	----	--	-------	--	------	--	----------	--	------	--	------	--	-------

		警告		
	●ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの入・切をしない 爆発・引火の原因。		●異常・故障時には、直ちに使用を中止する 発煙・発火・感電・けがの原因。 〈異常・故障例〉 本説明書末尾の「愛情点検」をご参照ください。	
	●製品に直接水やお湯、かび取り剤などをかけない ショート・感電の原因。			●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合は、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう据付ける 漏電した場合発火の原因。
	●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因。 分解・修理は修理技術者のいる販売店または当社のお客さま相談窓口にご相談ください。			●電気工事の際、裸線に接触しない 感電の原因。
	●お手入れの際は必ず分電盤のブレーカーを切る 感電・けがの原因。			
	●交流100Vを使用する 直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。			

注意

	●換気扇設置場所で中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用しない 本体・部品の落下によるけがの原因。		●運転中は危険なため、羽根の中に指や物を入れない けがの原因。
	●直接炎のあたるおそれのある場所や有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない。また、使用しない 火災の原因。		●電気工事は必ず電気工事店に依頼する 感電の原因。
	●中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用する場所には据付けない 本体・部品の落下によるけがの原因。		●お手入れの際は手袋を着用する 着用しないけがの原因。
	●本体に異常な振動が発生した場合は使用しない 本体・部品の落下によるけがの原因。		●部品の据付けは確実に行う 落下によるけがの原因。
	●浴室など湿気が多い場所には据付けない。また、使用しない 感電・故障の原因。		●長期間で使用にならないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る 絶縁劣化による感電・漏電火災の原因。
			●据付けの際は必ず手袋を着用する けがの原因。
			●本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う 落下によるけがの原因。
			●電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。

2.各部のなまえ



ご使用にあたってのお願い

- スプレー（殺虫剤・整髪用・掃除用など）をかけないでください。（グリル・羽根の破損、変質の原因となります）
- 高温（40℃以上）になるところに据付けられていないか確認してください。（製品の变形や早期故障の原因となります）
- 換気扇設置場所で中性以外の洗剤や消毒剤などを頻繁に使用すると寿命が短くなる場合があります。
- お手入れに下記の溶剤・洗剤を使用しないでください。（台所用中性洗剤をご使用ください）
シンナー、アルコール、ベンジン、灯油、スプレー、酸性洗剤、アルカリ性洗剤、化学ぞうさんの薬剤、クレンジャーなどの研磨材入りの洗剤、殺菌剤、消毒剤など（異常音の発生、変質、変色、塗装はがれや故障の原因となります）

3.使用方法

注意

- 換気扇設置場所で中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用しない
本体・部品の落下によるけがの原因。

運転開始と停止は壁のコントロールスイッチで行います。

- スイッチにより、ランプが点灯して運転中であることが分かるものがあります。
- 風量強弱切替機種はコントロールスイッチで風量を「強」・「弱」に切り替えることができます。コントロールスイッチ（ランプ付）の仕様により、「強」・「弱」切り替えでランプの点灯が薄くなったりちらついたりすることがありますが異常ではありません。

- お願い**
- 給気口があるか確認してください。（効果的な換気を行うために必要です）
 - IHクッキングヒーター（電気コンロ）などを設置したミニキッチン・台所に据付けた場合、蒸気が大量に発生する調理をされると、換気扇本体に結露（水滴）が生じ滴下するおそれがあります。その際は「鍋などに蓋をする」、「早めに加熱量を調整する」など水蒸気量が少なくなるようにしていただくか、滴下する前にグリルと本体内部を乾いた布などで拭き取ってご使用ください。（IHクッキングヒーターはガスコンロに比べ熱効率が高く、調理時に換気扇の周辺温度が上がりにくいため、特に冬期の温度が低い場合に換気扇で結露（水滴）が生じるおそれがあります）

- お知らせ**
- この換気扇は外気逆流や冷気侵入などを低減させるため、排気側に風圧式シャッターを付けています。風圧式シャッターでは急激なドアの開閉や外風の強い時などに、シャッターの閉じる音が聞こえる場合があります。

「強」運転の上手な使いかた

- 水蒸気や油煙などを急速に排出したいときは「強」運転に切り替えます。

4.お手入れのしかた

グリルにほこりが付着しますと風量低下や異常音発生の原因となります。3か月に1度を目安に、グリルの清掃をしてください。
※清掃頻度は目安であり、使用環境により異なります。

6. アフターサービス

■補修用性能部品の保有期間

- 当社は、この換気扇の補修用性能部品を、製造打ち切り後6年保有しています。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 長年ご使用いただくためには換気扇のメンテナンスが必要です。
- モーターは消耗部品です。

■修理を依頼されるときは

- **修理料金は** 技術料+部品代 (+出張料) などで構成されています。
- **技術料**…製品の点検や故障した製品を正常に修復するための料金です。
- **部品代**…修理に使用した部品代金です。
- **出張料**…お客様のご要望により、製品のある場所へ技術員を派遣する費用 (出張料) や有料駐車場の費用 (駐車料) を別途いただく場合があります。

●ご連絡いただきたい内容

1. 品名 ダクト用換気扇
2. 形名 VD-0000
3. お買上げ日 ○年 ○月 ○日
4. 故障の状況 (できるだけ具体的に)
5. ご住所 (付近の目印なども)
6. お名前・電話番号・訪問希望日

⚠警告

お手入れの際は必ず分電盤のブレーカーを切る
感電・けがの原因。

⚠注意

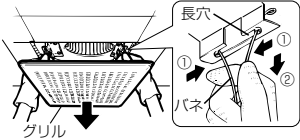
お手入れの際は手袋を着用する
着用しないといけない原因。

●お願い

- 洗剤などをご使用の場合は、台所用中性洗剤をご使用ください。
- 台所用中性洗剤は原液のまま使用せず、洗剤に記載の使用量の目安に従い、薄めてご使用ください。
- 洗剤が残らないようによくふき取ってください。
- **2.各部のなまえの** **ご使用にあたってのお願い** に記載の溶剤・洗剤を使用しないでください。

1 グリルをはずす

- グリルを両手で少し下げ、パネをにぎって本体内部の長穴からはずします。
- パネは片側ずつ取りはずすとスムーズにはずれます。



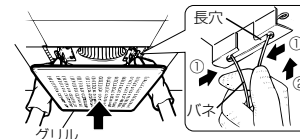
2 汚れを取る

- グリルの汚れは、台所用中性洗剤を浸した布でふき取り、洗剤が残らないように乾いた布でよくふき取ります。
- グリル以外の汚れがひどい場合および振動や騒音が発生した場合は、お買上げの販売店かお近くの「三菱電機 ご相談窓口・修理窓口」にご相談ください。
- 油煙の発生する場所でご使用されている場合、別売のグリスフィルターがグリルに据付けられています。(VD-20ZPP13-T、VD-20ZPPH13-Tにはあらかじめグリスフィルターが据付けられています)
- グリスフィルターは台所用中性洗剤を溶かしたぬるま湯 (40℃以下) に浸し、タワシなどで表面を軽くこすって汚れを落としてきれいな水ですすぎ洗いをし乾かしてください。(金属タワシなどは使用しないでください)
- グリスフィルターの据付け・取りはずしは、「グリスフィルターの据付け・取りはずし」を参照してください。



3 グリルを据付ける

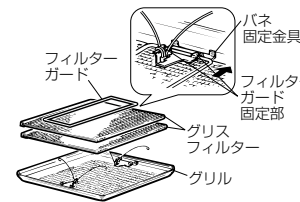
- パネを長穴に差し込み、グリルを軽く上に押し上げます。
- パネは本体側へ片側ずつ差し込むとスムーズに据付けられます。



グリスフィルターの据付け・取りはずし

- グリスフィルターをお手入れの際は以下の手順で据付け・取りはずしを行ってください。

- (1) 右図のようにグリスフィルターを2枚合わせて両側のパネ固定金具とグリルの間に差し込みます。
- (2) フィルターガードを両側のパネ固定金具のフィルターガード固定部に引掛けてグリスフィルターを押さえてください。
グリスフィルターはグリルの開口部を全て覆うように据付けてください。
- (3) 取りはずしは据付けと逆の手順で行ってください。



5. 修理を依頼する前に

このような動作や事象は異常ではありません。

- この換気扇は風圧式シャッターを設けています。急激なドアの開閉や外風が強いなどに、シャッターの閉じる音が聞こえる場合があります。
- ダクト配管が長いまたは曲がりが多い場合は、羽根の回転数が上昇し、運転音が大きくなります。
- 使用環境によっては、部屋の反響などにより、音が大きく聞こえる場合があります。
- コントロールスイッチ (ランプ付) の仕様により、「強」、「弱」運転切替えランプの点灯が薄くなったり、ちらついたりすることがあります。

当社ホームページの「よくあるご質問FAQ」もご確認ください。
(<https://faq01.mitsubishielectric.co.jp/category/show/270>)



このような症状があれば点検してください。

- コントロールスイッチを入れても換気扇が運転しない。
- 換気されない、換気量が不足する。
- 運転中に異音がある。
- ブレーカーが切れていたり、停電ではありませんか?
- 羽根が回転しているか確認してください。運転音が小さく、遅れているか分かりにくい場合があります。
- 羽根に異物が付着していませんか?
- 給気不足ではありませんか? (給気ガラリ、給気口は開いていますか?)
- 屋外フードにはこぶが堆積していませんか?
- グリルや本体が確実に据付けられていますか?
- グリルから室内に風が吹き返す。
- 運転中に振動がある。
- グリルがはずれかけている。または傾いている。
- 本体に確実に据付けてください。

電源を切って必ず販売店に点検・修理を依頼してください。
費用については販売店に相談してください。

愛情点検

☆長年ご使用の換気扇の点検を!



- スイッチを入れても羽根が回転しない。
- 運転中に異常音や振動がある。
- 回転が遅いまたは不規則。
(モーターはメンテナンスが必要な部品です)
- 点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。
- 本体据付部に腐食、破損などがある。

故障や事故防止のため、電源を切って必ず販売店にご連絡ください。点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

お客様メモ

形名: _____

お買上げ年月日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

サービス依頼されるお買上げ店名 (住所): _____

(電話番号): _____

この製品には地球環境保護の一環として再資源化ができるように主なプラスチック部品に材質名を表示しています。
(材質名は主材料に ISO 規定の略号を使用)

7. 仕様

形名	設定	消費電力 (W)		風量 (m³/h)		騒音 (dB)		質量 (kg)
		50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	
VD-18ZY13	—	32	36	270	260	38	37	5
VD-18Z13	—	31	35	330	325	36	35.5	5.2
VD-18ZP13	—	35	40	370	350	34.5	33.5	5.9
VD-20Z13	—	44	48	420	400	37.5	36.5	6
VD-20ZH13	—	44	48	420	400	37.5	36.5	6
VD-20ZP13	強	58	64	520	500	42.5	41.5	6.5
	弱	28	30	330	310	33	32	
VD-23Z13	強	78	88	635	600	43.5	42.5	9.3
	弱	40	43	380	350	33	31	
VD-23ZP13	強	95	106	760	700	46	45	10.3
VD-23ZPH13	弱	44	47	460	400	35	33	
VD-20ZPP13-T	強	78	—	620	—	49	—	7.2
VD-20ZPPH13-T	弱	50	—	450	—	41	—	

※特性はJIS C 9603Iに基づく開放時の値です。
※騒音値は無響室での測定値です。実据付状態では反響音などを含むためこれより高くなります。

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

【本体への表示内容】
※経年劣化により危険の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた右の内容を本体に表示しています。
【設計上の標準使用期間とは】
※運転時間や湿度など、標準的な使用条件 (右表による) に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全に支障なく使用することができる標準的な期間です。
※本製品の設計上の標準使用期間は、製造年を始期とし、JIS C 9921-2に基づいて算出したもので、無償保証期間とは異なります。また、偶発的な故障を保障するものではありません。
● 本製品は取扱説明書記載の設置場所の想定時間を用いて設計上の標準使用期間を算出しています。
● 「経年劣化」とは長期間にわたる使用や放置に伴い生ずる劣化をいいます。

標準使用条件 JIS C 9921-2			
電圧	相電圧 100V	定格電圧による	
周波数	50Hzおよび60Hz	定格周波数による	
湿度	20℃		JIS C 9603から引用
湿度	65%		
設置条件	標準設置	据付説明書による	
負荷条件	定格負荷	取扱説明書による	
想定時間	1年間の使用時間	換気時間 ^{注)} 2410時間/年 お掃除時間 2193時間/年 トイレ 2614時間/年 浴室 1971時間/年	

注) 24時間換気のもの、8760時間/年とする。

据付説明書

1. 据付けを正しく安全に行うために

据付けを始める前に「1.安全のために必ず守ること」(表面)、据付手順をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

2. 据付け前のお願い

⚠️ 注意

- 中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用する場所には据付けない
本体・部品の落下によるけがの原因。

据付けにあたって

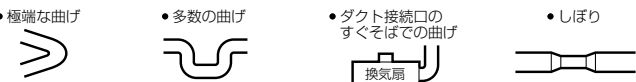
- 台所用としてご使用の場合、火災予防条例などの法規制があります。詳しくは三菱換気送風機総合カタログをご確認ください。
- ダクト用システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。
- 高温(40℃以上)になるところには据付けしないでください。早期故障の原因となります。
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 傾斜天井には据付けないでください。シャッター開閉不良、振動、異常音の原因となります。
- 製品上部を断熱材などで覆わないでください。早期故障の原因となります。
- 油煙の発生する場所に据付ける場合は、必ず別売のグリスフィルターをグリルに据付けてください。
- 同梱されているダクト接続口を使用してください。風量低下や異常音発生の原因となります。

据付位置

- グリルを取りはずしやすくするためグリル側面と部屋の壁面が150mm以上離れる位置に製品を据付けてください。

天井・ダクト工事

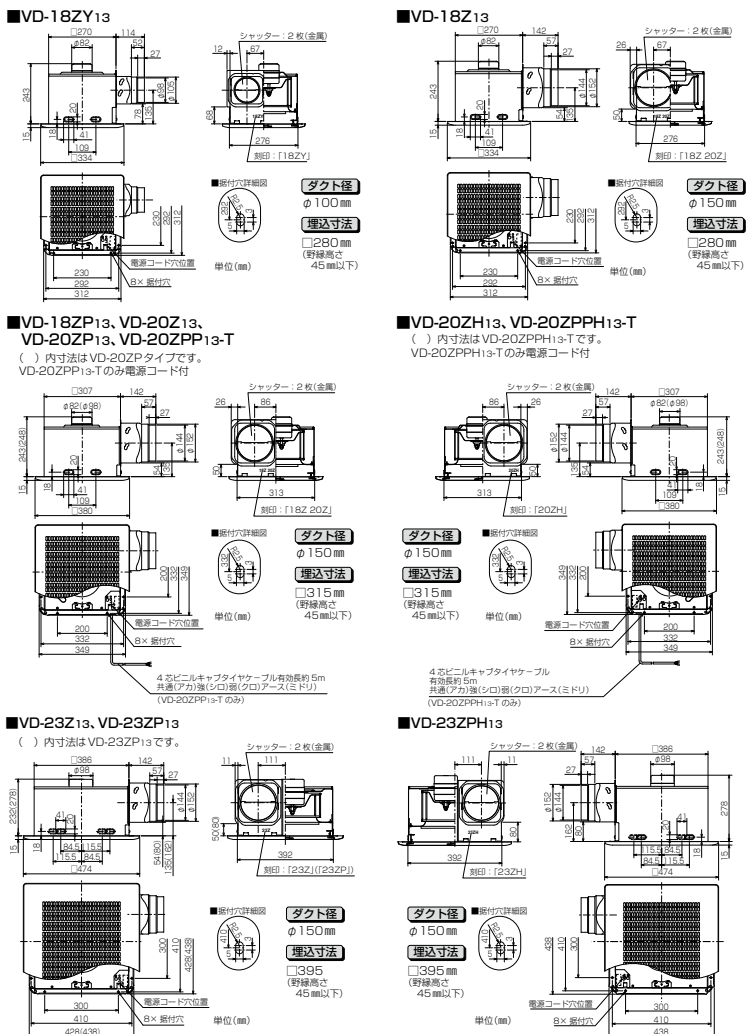
- 天井材は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 排気ダクトは雨水の浸入やドレン水の逆流を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下り勾配をつけてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。風量低下や異常音発生の原因となります。



- 天吊金具を使用する場合、製品の着脱には天井裏での作業が必要です。天井裏での作業ができるよう製品の近くに点検口を設けてください。点検口がない場合、製品取替えなどで天井などを壊す費用は、お客様のご負担となります。

3. 外形寸法図

【付属部品】木ネジ……9本

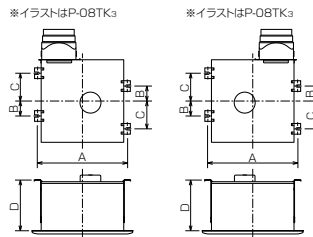


4. 据付方法

1 据付け前の準備

据付位置・壁排気穴位置(単位:mm))を決め、市販の吊りボルト(M8またはM10)を4本埋め込む。(下図参照)

- VD-20ZH13
- 左記以外の形名
- VD-23ZPH13
- VD-20ZPPH13-T

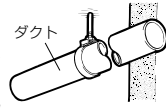


形名	P-08TKの場合 寸法	P-08TKaの場合 寸法	B寸法	C寸法	D寸法
VD-18ZY13、VD-18Z13	304 (標準:338-308φ)	304	100	100	207
VD-18ZP13、VD-20タイプ	341 (標準:338-345φ)	341	100	100	207
VD-23Z13	418 (標準:413-422φ)	418	70	130	207
VD-23ZPタイプ	418 (標準:413-422φ)	418	70	130	237

2 ダクト工事

壁排気穴から本体のダクト接続口までダクト配管する。

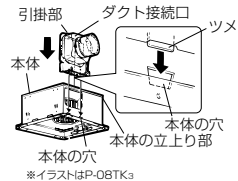
- ダクトはダクト接続口に力加わらないよう天井より吊る。(力が加わるとシャッター開閉不良、風漏れの原因となります)



3 本体を吊る (野縁を使用する場合は野縁に据付ける場合を参照)

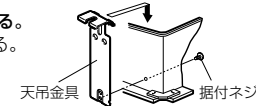
ダクト接続口が同梱されていますので下記作業を始める前に本体に据付けてください。

- 本体の穴とダクト接続口の内側のツメおよび、本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続する。



- 複数台を同時に据付ける場合は、「3.外形寸法図」に示す刻印・シャッター仕様のダクト接続口を間違えないように使用してください。

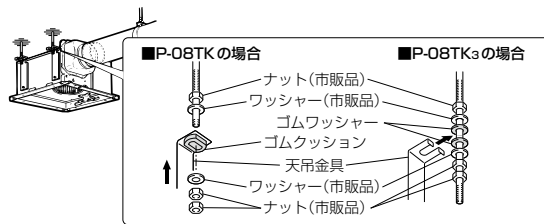
天吊金具P-08TKタイプ(別売システム部材)を据付ける。
● 天吊金具を本体に引掛けて内側より据付ネジで固定する。



本体を水平にし、天吊金具を吊りボルトに据付ける。

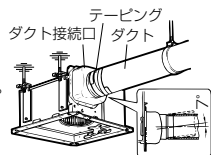
- ナットがゆるまないよう市販のワッシャー・ナットにて確実に固定する。

- 羽根を持って本体の据付けを行わないでください。(本体に羽根があたり、異常音の発生や羽根破損の原因となります)
- 下側のナットには緩み防止機能付ナットの使用やダブルナットなどにより緩み止めを施してください。



ダクト接続口とダクトを接続する。

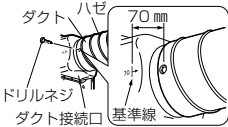
- 塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向7°)
- 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでテーピングする。



- 無理な力が加わらないよう注意してください。(無理な力が加わるとシャッター開閉不良や風漏れの原因となります)

ネジでダクトを接続する場合

- 図のように矢印から水平に70mmの位置に市販のドリルネジで固定する。スパイラルダクトはハゼ部が上記70mmの位置にくる場合は、矢印から水平に60mmの位置に固定する。
- ドリルネジの長さはダクトの種類に合わせ、右表を参照してください。シャッター開閉や固定不良の原因となります。



	ダクト呼び径 φ100の場合		
	100~105 (スパイラルダクト)	106~110	114 (VP管など)
ダクト外径(φ)	100	106	114
ネジ 呼び長さ	10	13	16

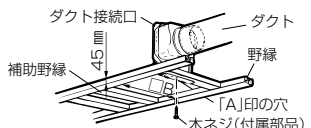
	ダクト呼び径 φ150の場合		
	150 (スパイラルダクト)	155~160	165 (VP管など)
ダクト外径(φ)	150	155	165
ネジ 呼び長さ	10	13	19

- 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでネジの頭をテーピングする。

野縁に据付ける場合 野縁の強度が十分でない場合は天吊金具を併用する

(1) 野縁組立

- 天井の野縁と補助野縁で据付枠を組む。(野縁高さを45mm以上で据付けると、シャッター開閉不良、異常音の原因となります)



● お願い

- 天井がたわまないように、十分強度のある野縁に据付けてください。
- 野縁を組立ての際は、据付穴のピッチと据付穴の詳細図をご確認ください。B寸法が大きいと、木ネジが垂直に打てなくなり、野縁の割れによる固定不具合が発生します。

形名	単位(mm)
VD-18ZY13、VD-18Z13	280
VD-18ZP13、VD-20タイプ	315
VD-23タイプ	395

(2) ダクト接続口の固定

- ダクト接続口をダクトに差し込み野縁の角の直角に合わせ、すき間がないよう付属の木ネジ1本で仮固定する。(「A」印の穴を使用)
- 塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能。(全方向7°)

- 複数台を同時に据付ける場合は、「3.外形寸法図」に示す刻印・シャッター仕様のダクト接続口を間違えないように使用してください。

2 本体の差し込み

●本体の穴とダクト接続口の内側のツメ及び、本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続する。

お願い

- 羽根を持って本体の据付けを行わないでください。(本体に羽根があたり、異常音の発生や羽根破損の原因となります)

3 本体の固定

(1) 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ8本で本体をすき間のないようにしっかり固定する。(すき間があると風漏れの原因)

(2) ダクト接続口を仮固定している木ネジ1本を締付ける。

(3) 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでダクト接続部をテーピングする。

お願い

- ダクト接続をネジで行う場合はネジでダクトを接続する場合は参照してください。

4 電気工事

電線同士の接続や接地工事を行う場合は電気工事の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令(および同解説)」および「内線規程」に従い実施してください。

■結線図(太線部分を結線する)

お願い

- 結線間違いや異電圧印加などの誤結線を行いますとモーターが故障します。誤結線によるモーター故障の場合、サービス費用(交換部品代含む)はお客様の負担となりますので結線図を十分ご確認ください。結線してください。
- 結線図の●部分の接続部は市販のジョイントボックスに収めてください。

●単一風量機種

電源 AC100V 50/60Hz

●強弱切替機種 (VD-20ZPP13-T, VD-20ZPPH13-T以外)

電源 AC100V 50/60Hz

●適用コントロールスイッチ

本体形名(単一風量機種)	コントロールスイッチ形名	定格
VD-18ZY13 VD-18Z13	P-10SW ₂	4A-AC300V
VD-18ZP13 VD-20Z13		
本体形名(強弱切替機種)	形名	
VD-20ZP13 VD-23Z13	P-Q2SW P-Q4SW ₂	
VD-23ZP13 VD-23ZPH13 VD-20ZPP13-T VD-20ZPPH13-T		

●コントロールスイッチ(ランプ付)の仕様により、「強」・「弱」切替えでランプの点灯が薄くなったたりちらついたりすることがありますが異常ではありません。

■結線の前に

お願い (VD-20ZPP13-T, VD-20ZPPH13-T以外)

- 電源電線の外被は70mm以上皮むきしてください。
- 電線被ふくは10mm皮むきしてください。端子カバーに刻印されている皮むき寸法図に合わせて皮むきすると便利です。(10mm以上むくと漏電の原因となります)
- より線を結線する場合は、棒状圧着端子(市販品)をより線に取り付けてから速結端子に確実に差し込んでください。(導電部10mm未満の場合、結線部外れの原因となります)
- 電源電線は、接続部に力が加わらないよう本体付近で約150mmたるませて、本体上部のモーターに接触しないようにしてください。
- アース工事の際は、単線の1.6またはより線1.25mm²をご使用ください。(圧着工具は日本圧着端子製YHT-2210をご使用ください)

お願い (VD-20ZPP13-T, VD-20ZPPH13-T)

- 電源電線は、接続部に力が加わらないようにたるませ、本体上部のモーターに接触しないようにしてください。

●電気圧チェック表(強弱切替機種の場合)

- 線間電圧が右記の電圧であることを確認してください。

スイッチ	線間電圧(V)	
	共通-強	共通-弱
切	0	0
入-強	100	0
入-弱	0	100

警告

- 電気工事の際、裸線に接触しない感電の原因。

●電気配線の識別(強弱切替機種の場合)

- 電気結線を間違えるとモーターが故障します。特に「共通」への結線を間違えると、モーターの温度ヒューズが溶断します。
- 正しく結線するために、電気工事の際、各電源電線を識別できるようにしてください。

■結線方法 (VD-20ZPP13-T, VD-20ZPPH13-T以外)

1. 本体上部のゴムプッシュより電源電線(屋内配線VVFケーブルφ1.6またはφ2)を通す。
2. 端子カバーのネジ1本をゆるめて端子カバーをスライドさせてあげ、速結端子に皮むきした芯線を確実に奥まで差し込む。(下図参照)
3. 端子カバーを端子カバーのあげ方と逆の手順で取付け、ゆるめたネジ1本を締め付け固定する。

単一風量機種

強弱切替機種

●電源電線をはさず場合

- マイナスドライバーで速結端子のはずしボタンをまっすぐ押しながら電源電線を引いてはさずしてください。

■結線方法 (VD-20ZPP13-T, VD-20ZPPH13-T)

1. 本体の電源コードと電源電線(屋内配線VVFケーブルφ1.6またはφ2)を結線する。(結線図参照)

●本体を野縁に据付けている場合は **7 天井材を張る** へつづく

5 軽量鉄骨を組む

軽量鉄骨と開口部補強用のCチャンネルで内寸がB寸法になるよう据付け枠を組む。

形名	B寸法	単位(mm)
VD-18ZY13, VD-18Z13	280	
VD-18ZP13・20タイプ	315	
VD-23タイプ	395	

6 本体の固定 (メンテナンスができるよう固定)

●軽量鉄骨がダクト配管と平行な場合

本体内部のリップ(4か所)を利用し、市販のドリルネジ4本で本体を軽量鉄骨に固定する。

●軽量鉄骨がダクト配管と垂直な場合

本体フランジ部の据付け穴を利用し、市販のドリルネジ4本で本体を軽量鉄骨に固定する。

7 天井材を張る

●本体を軽量鉄骨に据付ける場合

- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体の内寸法に合わせ、天井材に角穴を開ける。

●本体を野縁に据付ける場合

- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体のフランジ部分と天井材は必ず2~3mmのすき間があくよう角穴をあける。

お願い

- 本体固定の際は本体と天井のすき間のないように固定してください。(すき間があると風漏れの原因となります)
- 天井材の厚さは25mm以下で据付けてください。(グリルが天井材に密着しない場合があります)

8 グリルの据付け

油煙の発生する場所に据付けた場合

- 油煙の発生する場所に据付けた場合、必ず別売のグリスフィルターを据付けてご使用ください。(VD-20ZPP13-T, VD-20ZPPH13-Tにはあらかじめグリスフィルターが据付けられています)
- グリスフィルターの据付けは、「グリスフィルターの据付け・取りはずし」(表面)またはグリスフィルターに付属の取扱説明書を参照してください。
- グリスフィルターは右表を参照し、本体形名に合ったものを据付けてください。

本体形名	グリスフィルター形名
VD-18ZY13, VD-18Z13	P-18GFZ-M
VD-18ZP13・20タイプ	P-20GFZ ₂ -M
VD-23タイプ	P-23GFZ-M

- (1) グリルのパネを指先で縮め長穴に差し込む。パネは本体側へ片側ずつ差し込むとスムーズに据付けられます。
- (2) 手を放し軽くグリルを押し上げ天井材に密着させる。

5. 試運転およびお客様への説明

- コントロールスイッチがある場合は、切/入、強/弱切り替えが正しくできるか確認してください。
- 異常な音や振動がないか確認してください。

お客様への説明 表面の取扱説明書に従って、正しい使い方をお客様、発注者(オーナー、ゼネコン)または管理者に説明してください。

6. 修理を依頼する前に

■試運転時に、次のような症状があれば点検してください。

こんなとき	原因	点検・処置
電源スイッチを入れても羽根が回らない 強/弱どちらか動かない	分電盤のブレーカーが「切」になっている	ブレーカーを「入」にする
	正しく結線されていない	結線を確認する(スイッチ部/電源線接続部) ※換気扇にAC100Vが供給されていることを確認する ※「共通」への結線が正しく接続されていることを確認する ※ 4 電気工事 の電圧チェック表を確認する
運転中に異常な音や振動がする	本体・グリルが確実に据付けられていない	正しく据付け直す
	羽根・グリルに異物が付着している	異物を取り除く
	本体の固定(天用金具・ネジ止め)が弱い	本体の固定を確認する
	換気風路の抵抗が大きい(ガラリ・アンダーカット)	ガラリ・アンダーカットを開けて給気する
	換気風路の抵抗が大きい(ダクト配管)	ダクトのつぶれ、急な曲りを修正する
	換気風路の抵抗が大きい(屋外フード)	屋外フードのほこりを清掃する(特にリフォーム時)